

カナダ・マドレーヌ島の沖合いに毎年やってくる流氷。
その氷上では、たくさんのタテゴトアザラシが
そして子育てを行っている。
タテゴトアザラシの赤ちゃんはミルクを飲み、
昼寝を繰り返してはどんどん成長する。
約3週間という短い子育てだが、
それは愛情いっぱいの幸せな時間だった。

WEB-LUE White Version
Renewal Special

ホワイトプラネットの住人 タテゴトアザラシ (後編) Harp seal in the White Planet

悪天候の後、 タテゴトアザラシの親子と 久しぶりの対面

翌日からは悪天候のためしばらく足止めされた
が、数日後、晴天になった空を、ヘリコプターは早
朝から目的地へと向かっていた。少し大きくなっ
たであろう、久しぶりに氷の上で再会であった。
赤ちゃんたちは、母アザラシの栄養満点のお乳
を飲みつづけ、1日に2キロずつ体重を増やして
いくという。そして毛皮の色で、「イエローコート」、
「ホワイトコート」「グレーコート」と呼ばれる段階

に変身、成長していき、やがてひとり立ちする。
その期間は約3週間。わずか20日ほどの間に、赤
ちゃんは母アザラシの温かい擁護のもとスクスク
と育っていく。ホッキョクグマなどの外敵のいな
い氷の上は「氷のゆりかご」といわれるほど安全
な場所だが、絶えず動き続ける流氷の割れ目に
赤ちゃんが挟まれることもあり、傷つき、また命を
落としてしまうこともある。

興味津々にこちらの様子を見るタテゴトアザラシの親子

©WEB-LUE ウェブマガジンの二次配付および画像・文章の複製、二次使用を禁じます

Phot&Text **Yasuaki Kagii**
Web-lue 2007. Summer

Information Link  <http://www.kagii.jp/>  関連情報HPへ

ホワイトプラネットの住人 タデゴトアザラシ

*Harp seal
in
the White Planet*



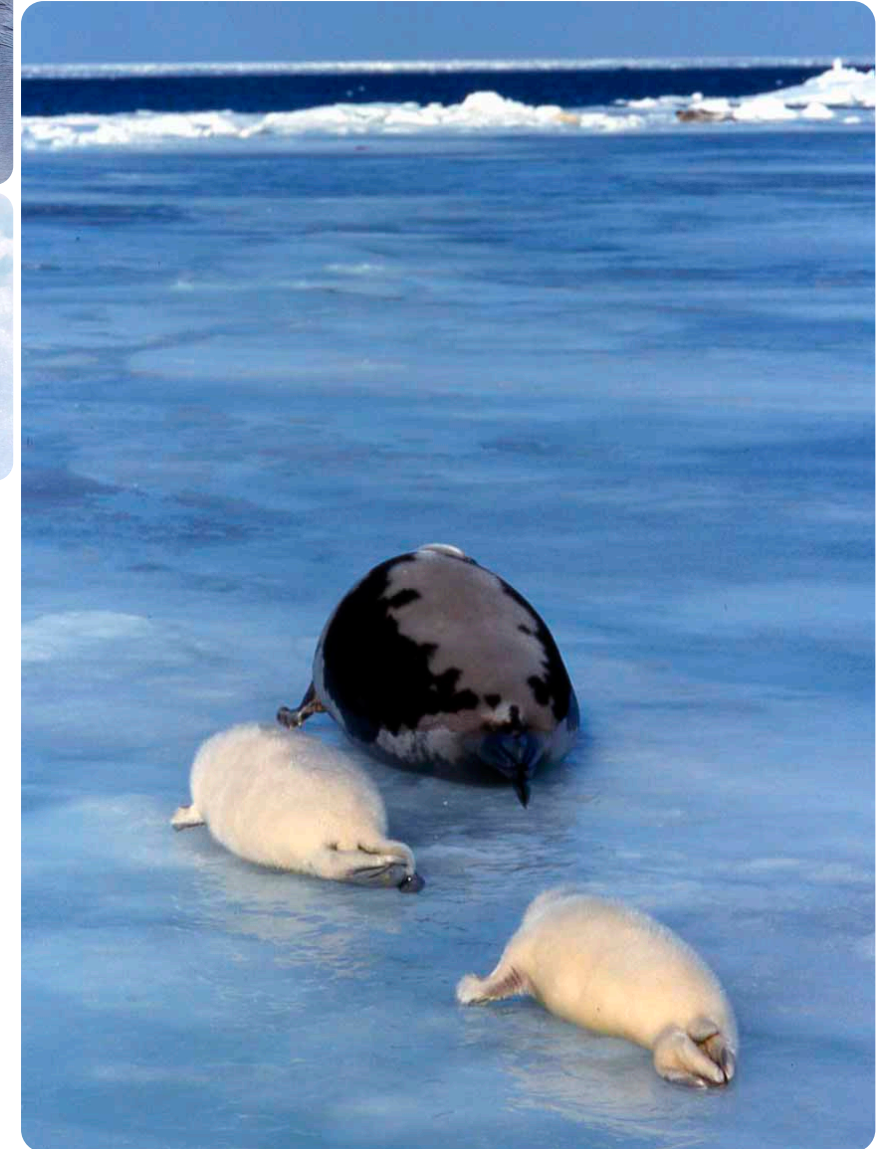
子育ての合間をぬって井戸端会議をする親アザラシ??



お母さんの前脚(上)
赤ちゃんの前脚(下)



迷子になったアザラシの赤ちゃんが、別の親子について行く



子育てに忙しい母アザラシたちも、子供に負けず劣らず様々な性格を持っている。私が近づいていくと、子供を守るために凄い形相でこちらに威嚇してくる母アザラシがいた。そのあまりの勢いに、私は何度、足場の悪い氷の上を遠回りしたことか。そうかと思うと、私が1歩でも近づくと、子供を氷の上に置き去りにしたまま、近くの海に通じる穴にひとり飛びこむ母アザラシもいた。そして、数分後、穴から出てきた彼女は、まるで何もなかったように子供のもとへ帰っていく。

そんな母アザラシの行動を観察しながら、私は母の逞しさを感動してみたり、また何やら情けない気持ちになったり。この時期、母アザラシは自分は絶食しながら子供にお乳を与え続けている。時々お母さんの見つからない赤ちゃんが、別の母アザ

ラシにお乳を求めて近づいてくることがある。しかし母アザラシは「よその赤ちゃんに飲ませる乳はない」と威嚇し、また時には爪を立てた胸ヒレでその赤ちゃんを叩き追い払おうとするのだ。

初めてそれを見ると、誰もが驚くだろう。しかし、そのような行為はこの氷上では当たり前のように繰り返されている。母アザラシは、何度もお乳をねだりにくるよその赤ちゃんに、一切その態度を変えることなく、自分の赤ちゃんにだけお乳を与え続けた。残酷にも思えるその様子に、私はなぜか勇気を与えられていた。

一方、父アザラシはというと、離れた場所で集団を作り子育ては一切行わない。そんな彼らの関係を考えていると、とてもおかしくなってくる。

母アザラシの優しさに 包まれるひととき



「あれ、うちの子はどこ??？」



「お母さん! ここだよ〜!!」

ホワイトプラネットの住人
タテゴトアザラシ

*Harp seal
in
the White Planet*

そのような彼らの厳しい掟を目の当たりにしながら、私はある親子アザラシを撮影し始めた。最初、その母アザラシは私の存在をひどく気にしているようだったので、ゆっくりと時間をかけて彼らに近づいていくことにした。彼らの側に行くことに許しを請うように、また一方的に終わるかもしれないが、私としてはせいっぱいの信頼関係を築くように。

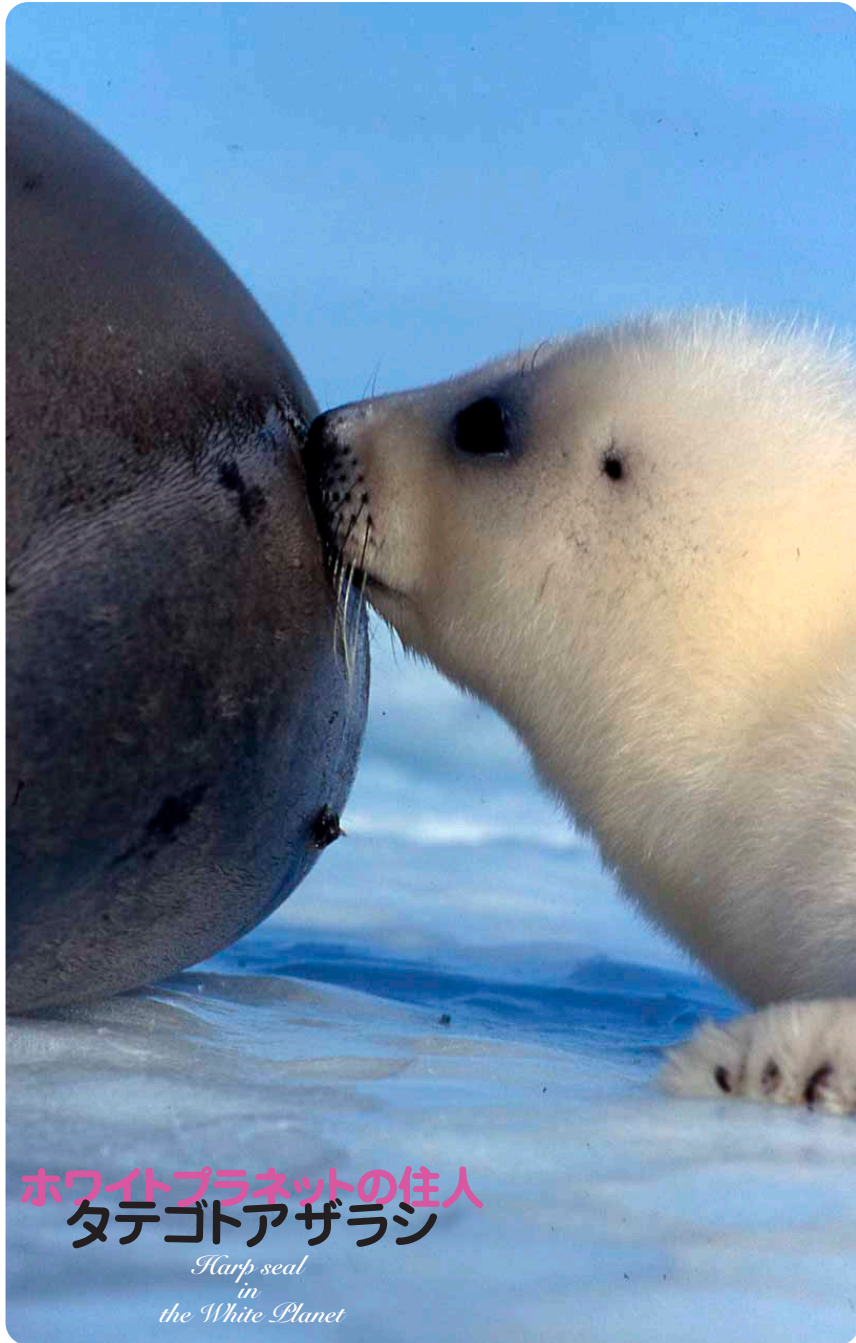
しばらくすると、いっこうに距離を縮められない私に協力する気になってくれたのか、親子アザラシはだんだんと興味深い行動を見せてくれた。

例えば、彼らはお互いの存在を確認するとき鼻先を合わせて、クンクンと臭いを嗅いでいる。それがまた、まるで2頭がキスをしているかのように見えて、とても微笑ましい。また母アザラシは、子供の傍に

横たわり、大きな胸ヒレでゆっくりと、不器用に子供の身体をなでていた。あまりにも単純でストレートな愛情表現が間近に見えてくると、私自身も母アザラシの優しさの中にあるような気がしてくる。

WEB-LUE White Version Renewal Special

Web-lue 2007. Spring



ホワイトプラネットの住人
タテゴトアザラシ

*Karp seal
in
the White Planet*



母子と過ごした幸せの時間

特に印象に残っているのは、授乳シーンだ。子供は本当にすごい勢いで飲む、ジュジュッと音を立てながら。そのあまりの勢いに、子供の口からはミルクが溢れでているくらいなのに、母アザラシはそんなことは全く意に介さずといった感じで、チラッ、チラッと時々子供の顔を覗き込むが、大半は目を瞑り、横になっているだけ。

子供はたくさんお乳を飲んだあとは、すぐに昼寝を始める。そして気が付くとまたお乳を飲んでる。ほんとそれの繰り返し。お乳を飲み終えた後、口の回りにミルクをつけた子供の寝顔はなにか夢を見ているのか本当に幸せそうだった。一度彼はミルクの鼻風船を作っていた。思わず噴き出してしまった。どんどん幸せな時間は流れていく。



おっぱいをもらう時の赤ちゃんアザラシは甘えん坊だ

ホワイトプラネットの住人
タテゴトアザラシ

*Harp seal
in
the White Planet*



彼らの視線の先に、防寒具に包まれた可笑しな僕たちが居た。
このくらいの距離で見つめられると恋しちゃう……

お母さんアザラシとはぐれてしまった赤ちゃんがこちらの様子を伺っていた

WEB-LUE White Version Renewal Special

Web-lue 2007. Spring

 Information Link  関連情報HPへ
<http://www.kagii.jp/>

ホワイトプラネットの住人 タデゴトアザラシ

*Harp seal
in
the White Planet*

彼らの行動をある程度撮影した後、

私はカメラをバッグにしまい、

彼らと川の字になって氷の上に横になつてみた。

空を見上げていると氷の上でも

こんなに太陽の光は暖かいものなのかと、

厚い防寒具に隠されていない顔だけで、

私はその温もりを感じていた。

(SINPA No76)

この日、最後に撮影した写真はこの親子だった

©WEB-LUE ウェブマガジンの二次配付および画像・文章の複製、二次使用を禁じます

Phot&Text **Yasuaki Kagii**
Web-lue 2007. Summer

Information Link  <http://www.kagii.jp/>  関連情報HPへ